

敦賀市庁舎 外観デザイン検討（北面）

■外観コンセプト

敦賀の歴史とともにある「敦賀湾」のように、人や物、そして時代をつなぐ、広く市民に開かれた庁舎イメージを表現します。市庁舎と消防庁舎が一体的に機能する新しい庁舎として、ひとつながりのフレーム（庁舎外壁）デザインを採用します。地球環境にやさしく、利用者に快適な外皮を実現します。

	案A（白壁）	案B（松原ルーバー）	案C（パンチングメタル）
検討案			
概要	白いフレーム（建物の外壁枠）の中に、壁とガラス窓を交互に配置し、開口比率を下げつつ、断熱性能を向上させた案。	白いフレーム内を松原をイメージしたランダムなルーバー※①で覆い、その内側の壁に適宜窓を設ける案。	白いフレーム内をアルミやステンレス等の金属板（パンチングメタル）で覆い、その内側の壁に適宜窓を設ける案。
省エネ	壁部分の断熱性能を高くすることで外気負荷を低減できる。 ◎	松原ルーバーにより西日を遮断できる。壁と窓の比率を調節することで外気負荷低減の度合いを調整可能。 ◎	パンチングメタルにより西日を遮断できる。壁と窓の比率を調節することで外気負荷低減の度合いを調整可能。 ◎
開放性	壁面が多いため開放性のない箇所が発生する。 △	ルーバーの本数を調整することで、緩やかに外部と繋がる開放性を有する。窓の位置を工夫することで地面から空まで広い視野角が得られる。 ○	パンチングメタルの切れ目や孔の大きさ、密度を調整することで開放性を調整できるがやや劣る。 △
メンテナンス性	ガラス面が小さいため清掃メンテナンスが比較的容易。 △	フレームの先端にルーバーがあるため雪が積もりにくい。外壁とルーバーの間がバルコニー状になるため外壁やガラスのメンテナンスが容易。 △	パンチングメタルと外壁の間で外壁やガラスのメンテナンスを行える。 ◎
コスト	窓と壁の単純な組合せのため、一般的な庁舎グレード。 ○	ルーバーを設ける分割高となるが、その分、内側の壁と窓を比較的安価な仕様にする事で、建物の外見（ルーバー面）を変えずに減額ができ、一般的な庁舎グレードが可能。 ○	パンチングメタルを設ける分割高となるが、その分、内側の壁と窓を比較的安価な仕様にする事で、建物の外見（パンチングメタル）を変えずに減額ができ、一般的な庁舎グレードが可能。 ○

※①ルーバー：壁や天井の開口部に、羽板(はいた)を縦または横に組んで取り付けたもの。羽板の向きを変えて直射日光や通風を加減する。

○各案の拡大図は敦賀市HPでも閲覧できます。